

平成29年3月1日  
北陸信越運輸局

## 大型自動車等の車輪脱落事故防止について

～ 適正な車輪脱着作業の実施や一定走行後の増し締め・日常点検の周知 ～

北陸信越運輸局管内（新潟県、長野県、富山県、石川県）での事業用自動車の車輪脱落事故が、近年も引き続き発生している状況です。（注1）

（注1）管内の事業用自動車の車輪脱落事故件数 平成26年：3件、平成27年：4件、平成28年：4件  
車輪の脱落は、路上故障による他の交通の妨げとなるばかりでなく、歩行者や他の車両の人命にかかわるなど、重大な事故を引き起こすことにもなりかねません。このため、これからタイヤ交換時期を迎えるに当たり、自動車運送事業者、自動車整備事業者に対し、「ストップ!!ザ・車輪脱落事故」（注2）（<http://www.mlit.go.jp/common/001151122.pdf>）を活用する等して、大型自動車等の適正な車輪脱着作業を行うことや、大型自動車等の使用者に対して増し締め・日常点検の確実な実施の周知をすることについて通達を发出了しました。

北陸信越運輸局としては、引き続き大型自動車等の車輪脱落事故の防止に努めてまいります。

（注2）国土交通省、（一社）日本自動車工業会、（一社）日本自動車車体工業会、（一社）日本自動車タイヤ協会が周知・啓発資料として作成したもの。

（「ストップ!!ザ・車輪脱落事故」における4つのポイント）

### 車輪脱落を防ぐ、4つのポイント

確実な締め付け	増し締めの実施	日常の点検	ホイールの履き替え																		
<p>締め付け方式には、球面座で締め付ける JIS 方式と平面座で締め付ける ISO 方式があります。規定の締め付けトルクで確実に締め付けます。</p>  <p>規定の締め付けトルク</p> <p>軽いつけないうえ、ゆるく徐々に締め付けます。</p> <p><b>締め付け順序</b></p> <p>日本ボルトの場合 10本ボルトの場合</p> 	<p>締め付け後は初期なじみによってホイールナットの締め付け力が低下します。50～100 km 走行後を目安に増し締めを行います。</p>  <p>ねじの締め付け方向を確かめて締め付けます</p> <p>緩める 締める</p> <p>右ねじの「R」表示</p> <p><b>JIS方式（球面座）ダブルタイヤの場合</b></p> <p>①アウターナットを緩めます。 ②インナーナットを締め付けます。 ③アウターナットを締め付けます。</p>  <p>この図は右側タイヤの場合です。</p>	<p>一日一回、運行の前に、ホイールボルト、ナットを目で見て、さわって点検します。異常を発見したら直ぐに整備工場へ。</p>  <p>山っ張り アウト締め へこみ ナットが付いていない ボルト折れ 腐食、異音 漏汁</p>  <p>ナットが緩まる方向に向く 指をそえる</p>	<p>スチールホイール、アルミホイールの履き替えには、それぞれ適合するホイールボルト、ナットの使用が必要です。必ず確認してください。</p>  <p><b>JIS方式（球面座）8穴・8穴</b></p> <table border="1"> <tr> <th>ホイール</th> <th>スチールからアルミに変更する</th> <th>アルミからスチールに変更する</th> </tr> <tr> <td>フロント</td> <td>アルミ用のナットに交換（※）</td> <td>スチール用のナットに交換（※）</td> </tr> <tr> <td>リヤ</td> <td>ホイールボルト、インナーナットをアルミ用に交換</td> <td>ホイールボルト、インナーナットをスチール用に交換</td> </tr> </table> <p>※日野車は、ナットに加え、それぞれ専用のホイールボルトに交換します。</p> <p><b>ISO方式/新・ISO方式（平面座）8穴・10穴</b></p> <table border="1"> <tr> <th>ホイール</th> <th>スチールからアルミに変更する</th> <th>アルミからスチールに変更する</th> </tr> <tr> <td>フロント</td> <td>ホイールボルトをアルミ用に交換（ホイールナットは共用）</td> <td>ホイールボルトをスチール用に交換（ホイールナットは共用）</td> </tr> <tr> <td>リヤ</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	ホイール	スチールからアルミに変更する	アルミからスチールに変更する	フロント	アルミ用のナットに交換（※）	スチール用のナットに交換（※）	リヤ	ホイールボルト、インナーナットをアルミ用に交換	ホイールボルト、インナーナットをスチール用に交換	ホイール	スチールからアルミに変更する	アルミからスチールに変更する	フロント	ホイールボルトをアルミ用に交換（ホイールナットは共用）	ホイールボルトをスチール用に交換（ホイールナットは共用）	リヤ		
ホイール	スチールからアルミに変更する	アルミからスチールに変更する																			
フロント	アルミ用のナットに交換（※）	スチール用のナットに交換（※）																			
リヤ	ホイールボルト、インナーナットをアルミ用に交換	ホイールボルト、インナーナットをスチール用に交換																			
ホイール	スチールからアルミに変更する	アルミからスチールに変更する																			
フロント	ホイールボルトをアルミ用に交換（ホイールナットは共用）	ホイールボルトをスチール用に交換（ホイールナットは共用）																			
リヤ																					

【問い合わせ先】

国土交通省 北陸信越運輸局自動車技術安全部

整備・保安課 山本、樋詰 TEL：025-285-9155



北信技整第253号  
北信技保第127号  
平成29年3月1日

新潟運輸支局長 殿  
長野運輸支局長 殿  
富山運輸支局長 殿  
石川運輸支局長 殿

自動車技術安全部長



### 大型自動車等の車輪の脱落事故防止について

大型自動車等のホイール・ボルト折損やホイール・ナットの脱落による車輪脱落事故の防止については、機会あるごとに注意喚起してきたところですが、事業用自動車の車輪脱落事故が近年も引き続き発生している状況です。

車輪の脱落は、路上故障による他の交通の妨げとなるばかりでなく、歩行者や他の車両の人命にかかわるなど、重大な事故を引き起こすことにもなりかねません。

このため、これからタイヤの交換時期を迎えるに当たり、自動車運送事業者及び自家用大型車の使用者に対して、下記事項について改めて周知・徹底をお願いします。

#### 記

「ストップ!!ザ・車輪脱落事故」 (<http://www.mlit.go.jp/common/001151122.pdf>) を活用する等して、大型自動車の適正な車輪脱着作業を行うこと。その際には、次の事項を徹底すること。

① ホイールの履き替え

スチール・ホイール、アルミ・ホイールの履き替えに当たっては、それぞれ適合するホイール・ボルト、ホイール・ナットを使用することを必ず確認すること。

② 確実な締付け

車輪脱着作業等に当たっては、自動車製作者が規定するトルクでホイール・ナットを確実に締付けること。

③ 日常の点検

一日一回、運行の前に、ホイール・ボルトの折損や緩み等がないかについて点検ハンマ等を使用して点検すること。

④ 増し締めの実施

締付け後は初期なじみによってホイール・ナットの締付け力が低下するため、50～100km走行後を目安に増し締めを行うこと。特に、ISO方式とJIS方式では締付け方法が異なることに注意すること。





北信技整第254号  
平成29年3月1日

新潟運輸支局長 殿  
長野運輸支局長 殿  
富山運輸支局長 殿  
石川運輸支局長 殿

自動車技術安全部長



### 大型自動車等の車輪の脱落事故防止について

大型自動車等のホイール・ボルト折損やホイール・ナットの脱落による車輪脱落事故の防止については、機会あるごとに注意喚起してきたところですが、事業用自動車の車輪脱落事故が近年も引き続き発生している状況です。

車輪の脱落は、路上故障による他の交通の妨げとなるばかりでなく、歩行者や他の車両の人命にかかわるなど、重大な事故を引き起こすことにもなりかねません。

このため、これからタイヤの交換時期を迎えるに当たり、自動車整備事業者に対して、下記事項について改めて周知・徹底をお願いします。

#### 記

- 1 「ストップ!!ザ・車輪脱落事故」(<http://www.mlit.go.jp/common/001151122.pdf>)を活用する等して、適正な車輪脱着作業を実施すること。
- 2 大型自動車等の使用者に対して、タイヤ交換後50～100km走行後の増し締め、日常点検の確実な実施について周知をすること。